

開成学園排球部

①. ②. 会誌

— 創刊号 —

S.44. 9. 1.

VOLLEY BALL

目次

新しい生命 いのち

— 創刊の詞に代えて —

2

ページ

編集者より

アピール

4

バレー部のこの頃

部長 西村隆

6

※合 宿 ※

矢沢俊彦

12

(詩) 子鹿の歌

16

(詩) アプラクサス

18

O B 短信

20

(附) O B 会々員名簿

48
35

(〃) 排球部々員名簿

34
27

❀❀ 新 しい 生 命 ❀❀
いのち

4 創刊の詞に代えて 4

新しい生命いのちが 今 産声うぶごえをあげた

この子には 大キな使命が

課せられている——

野越え山越え 谷間がしを抜けて

皆さんの間に縦横に パイプを通すのが

この子の使命です

胸いっばいに吸い込むと

ちよつぱり 昔の味がして

それでいて またフレッシュな気分になる

不思議な気体——

そんなものも運ぶ。パイプ有人です

だが この子は虚弱体質

心臓の通りの弱々しき——

ちよつと放っておけば

すぐに息が絶えて 死んでしまいうです

この子に そんなまっつい仕事か

できますでしょうか——

それは 皆さんのお力次第——

せつかく与えられたこの小さな生命いのちを

どうぞ 憐んで

大きく育て、やってください

44・9・1

S 44 卒業生

A. KATANO

Y. SAGISAKA

K. TANNNO

編集者より

ア。ビール

-4-

葉書でも申し上げたとおり、OB会の
実状は、会とは名ばかりの全く空洞化した
ものとなっております。

「去る者日々に疎し」の言葉もあり、開成
時代に楽しい充実した日々を送ったOBの
方々も、一年たち二年たつうちに開成を忘
れ、また共に喜び、苦しんだバレーの仲間
からも段々離れてゆくようであります。

この現状を打開し、OBのネタ相互の間
に、またOBと現役諸君との間に交わりの
パイプを通そうという目的でこの小冊子は

我々がOBだからという、ただけであって、
実質的には部誌といつてもよいものだと思
います。

私たちの希望としても、実際のOB会誌と
して発行してゆくには時間的にも内容的に
も無理があるので、年に一回程度、現役諸
君の手で部誌として発行して頂ければ、
と思っております。(もちろん、それだけ
の時間的余裕がくれはの部です。練習に追
われて、ちよっとキビシイですか?)

この企画が軌道にのったところで、OB
会誌を開いてほしい、とのご希望も伺って
おります。OB会を活発化させるため
のみならず、バレー部の一層の発展を企てるた
め、皆様のご協力を切にお願ひ致します。

-5-

バレー部のこの頃

部長 西村 隆 (高二)

-6-

OBの皆さん、お元気で毎日をお過ごしのこと
事と思います。

我々部員一同は、先輩のオマがこゝまで立
派に築き上げて下さったバレー部を、より一
層成長させるため、そして次代を担う後輩の
諸君に、バレーボールの素晴らしさとそのま
ごころを伝えようと、毎日力を合わせて練習
に励んでおります。

こゝで皆さんに、最近のバレー部の活動に
ついてお知らせしたいと思っております。

昨年の高校バレー部の活躍はすさまじいも
のでした。五月、東京代表として関東大会へ
出場しました。場所は山梨県甲府市の甲府高
校体育館。対戦チームは神奈川県代表横浜カ
ンパニー。開成」という名はこゝでも広ま
っているのでしょうか、体育館内では地元の人

学生も みるに開成を応援して下すましま
しかし、その期待に応えられず、大敗に終わ
りました。この苦い経験も次の試合に生か
そうではあつかいという気持ちと小さな自信を抱
いて甲府を去りました。

それからこの夏練習は来る日も来る日も続き
ました。でも、誰一人として弱音を吐いた
りません。当時高一であつた私たちも、球拾
いに専心しました。苦しい時もありました。
お互いに激しく対立したこともありました。
でも、そこには充実感がありました。青春の
力と力を激しくぶつけ合っていたからです。
九月の開成祭では、三校リーグ戦(開成、
麻布、駒場東邦)に優勝。

一月、支部大会に於いて開成Aチーム、B
スト4、Bチーム、当時高3の片野亮君と高
3(開成)はベスト8と1位。

私学祭に於いては堂々ベスト4に選出。

そして十一月に行われた新々戦では、聖橋
聖田川、駿台等の強敵を見事に破つて、南大
と、東京都ベスト4に入る好成績をおさめた

「こまびびくるには彼等々の勝手が私ゆずり
 した。桑田さんはもちろん、小山さんという
 選手それに見ぬ大マネージャーの勢の力は相
 当りものでした。みんなの心ちむとつにまじ
 めとげていいたうです。

試合が終わり、でも、高3(当時高2)の方
 々の苦しみは続きました。

「僕等はこれで使えも終えた。あとは勉強
 をし、力はあるもない。もっとも自分の時間が
 欲しい。……」だが、先生からは来年の関東
 大会までの期待をかけたられたのです。

「こんな自虐ののりまっしている時にやめてし
 まらぬば惜しい……」

先生との対話が長い間続きました。そして

真陰に悩み抜いた上で、高3の夏は、

「やろう、頑張ろう、」

一致したのです。

その甲斐あって、今年も去年に続いて関東
 大会出場権を勝ち取り、五月三十一日に茨城

県オチキテ杯九州大会では

一回戦

開成 2
 15 14
 15 16
 の 勝田工高(茨城)

二回戦

開成 1
 10 13 15
 15 13 15
 の 栃木商高(栃木)

と、惜しくも二回戦で敗れました。(ベスト2)
 しかし、この延々一時間半にわたる栃木の
 最強との試合は、開成の負けい魂が憤懣なく
 發揮された実に素晴らしい試合でした。

以上、高校の状況についてお伝え致しまし
 たが、中学に於いても、荒川区大会、私学祭、
 開成祭などで存分に活躍しておりす。

私たちは幸せ者です。中村博次先生という
 よき先生がいろっしやるからです。先生がさ
 激しいおしかりを受けたことも何度かありま
 す。顔で笑って心で泣いたこともあります。
 くやくして一睡もできなかつた合宿の晩もあ
 りました。だけど、先生は私たちがかわい

からこそ、厳しく注意して下さるのだと思ひます。

私は、先生の情熱をこの上もなく愛し、尊敬します。先生は、他人に何と言われようと、自分の信念を貫かれる方なのです。

百聞は一見に如かず、と言われています。どうかO.Bの皆さん、お忙しいとは思いますが、是非合宿にいらして先生と私たちと一緒に、よき一日をお過ごしにたつて下さるよう心がけてお願い致します。

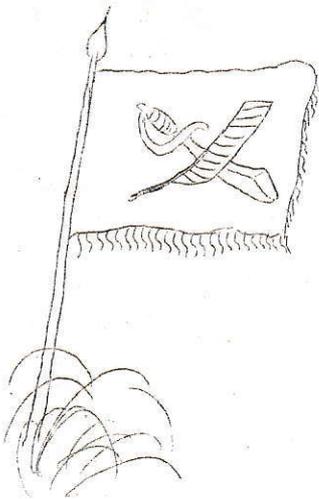
私が今、一番すばらしいと思ふこと——まず「若いつていゝ有あ」次に「O.Bの皆さんが」とてもいゝ人ばかりだ」ということ。

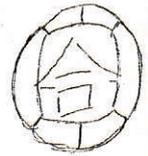
大学の練習の合い間をぬって夜遅く駆けつけて下さった先輩、みんなの顔が見たくて見たくて、夜の八時頃いらして差し入るだけしてすぐ帰って行かれた先輩……私の胸にある強いものが——ジーンとあついものが迫ってきます。みんな立派な先輩ばかりです。特に今夏の合宿に於いては、佐藤・片野(兄)

結城先輩が、私たちのために貴重な時間をさいて長い期間にわたってご指導下さったことも、この紙面を借りてお礼申し上げます。私はこの時、涙を浮かべるほど感謝の気持ちで一杯でした。私は、後世にまでこの合宿で味わった深い感慨を伝えようと思ひます。

私たちは、このバレー部の輝しい伝統を発展させるために、青春の情熱をこのバレーボールに注いでゆこうと思つております。それがまた私たちの義務であると思ひます。

O.Bの皆さん、いつでも母校開成にいらつしゃつて下さい。是非、私たちの元気有様、日焼けした真っ黒な顔を見にいらつしゃつて下さい。お願いします。





48卒

(中三) 矢沢俊彦

八月十日十二時 合宿地岩井に着く

此処でこれから俺とボールとの

試練の戦いが始まるのだ——

バスから足を下したその瞬間に

岩井での五度目のボールとの果し合いの

火ぶたが切られたのだ

俺の思った通りに上ってくるボール

俺の顔に身に向かつてくるボール

あるのBが打つじ 実に大人しくなる

ボール

また 打つるのBが打つと 荒れ狂ったように

空を切つて飛んでゆくボール——

俺はそんなボールを 愛し 尊敬し

そして 憎む

人生にはいろいろなことが 数多く

起こるだろう

バレーをやつてゆく上においてモ——

苦しいとき おまえを見る

大声を出す

そして おまえを殴る

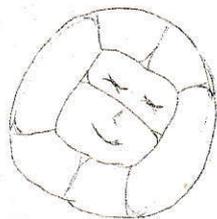
ボールが汗でぬれる

俺と同じだ 泣いている——

楽しいとき ボールを抱きかかえて

口しゃき回す

ボールを上から押す



顔がゆがむ

おまえは うそをつかない

人間のようには……

おまえは 俺の青春を奪った

一度しがない青春も……

だから 俺もおまえの青春——いや いのち 生かすも奪ってやる

夢中になる

レシーブでくたくたになつた俺君のた

おまえは瘦れていけるのか

バカヤロ——

八月十五日午後六時 今日最後の練習が始まる

残すはあと一日

高校のレギュラーAとの試合である

キャプテンは じゃんけんで負けた

おまえは 今 女の子の手中にある

サーブも打つ——痛いだろうががマンしろ

やっぱり俺のいるほうがいっか

こいつ

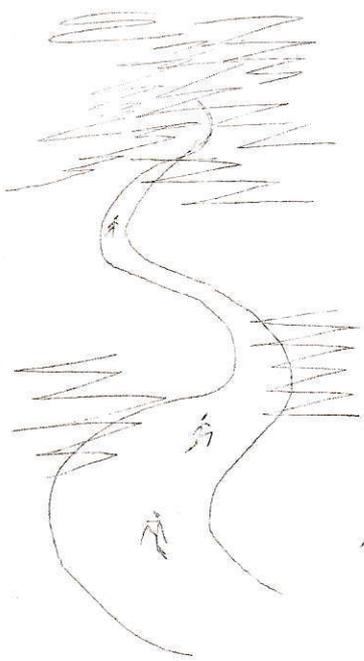
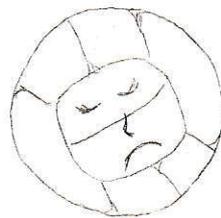
結局 21-6で勝った

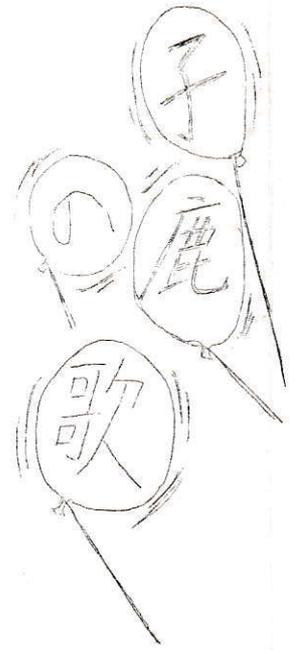
もうおまえは 孤独じゃない

リッパは俺たち副成バレー部の一員だ

俺は おまえには負けない

どんなに苦しいことがあつても



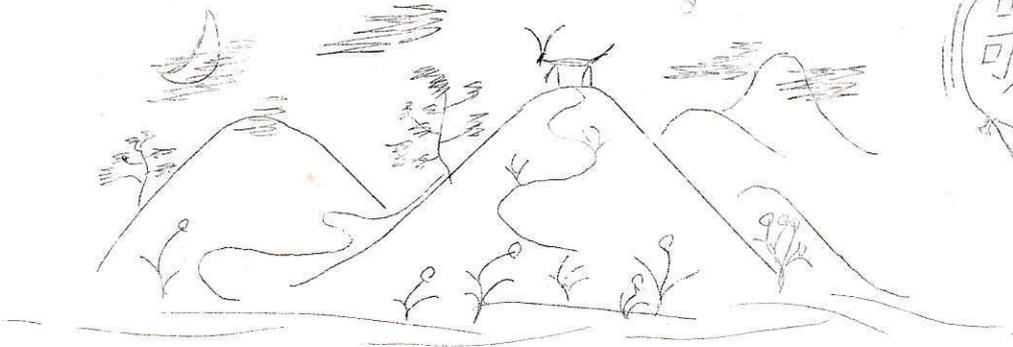


ころんで ころんで
泥だらけ

それでモ子鹿は起さあがる
野原の向こうのその先に
バラの咲いてる丘がある
虹のかがやく空がある

歩いて 歩いて
夢を見る

雪の降る日にまんまるの
月に抱かれてゆるゆると
空も赤した夢を見た
手んわり眠った夢を見る



走って 走って

汗まみれ

それでも子鹿はまだ走る

谷を渡って山を越え

緑の森もつきぬけて

黙って走る 走りぬく

子鹿よ 子鹿よ

どこへ行く

幸福たずねてまたむきに

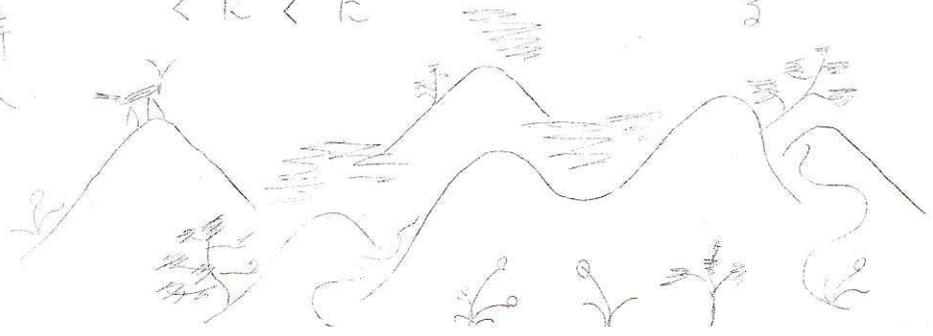
走る子鹿よ どこへ行く

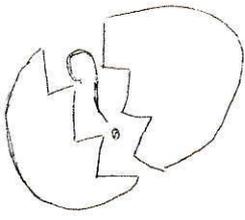
幸福たずねてまたむきに

走る子鹿よ どこへ行く

開成バレー詩人

志村武





ハッセ

「アミアン」ヨリ

ア
プ
ラ
ク
サ
ス

鳥は卵の中からぬけ出ようと、殻を
砕く
卵は世界だ

生まれようと欲するものは

一つの世界を破壊しなければ

なれない

鳥は神に向かって飛ぶ

神の名は

ア
プ
ラ
ク
サ
ス
といふ

作成 白取芳典(44年卒)
丹野広蔵(〃)

編集責任 丹野広蔵